



はんのう消費者便り

2010年5月31日発行
事務局 飯能市生活安全課
TEL 973-2111 内線 611

視点を変わると見えてくる... お金・環境・未来

田中 優さん
講演会
2010年3月21日

一、環境を 考える視点

3月21日(日)消費者団体連絡会主催で田中優さんを講師に、市民会館にて「視点を交える」と見えてくる、お金・環境・未来」と題した講演会を開きました。

以下はその講演の要旨です。

*「地球温暖化はウソ?」

昨年(2009年)の二月に田中氏はアフリカのキリマンジャロを訪ねた。雪が無かった。温暖化は確実に進んでいる。キリマンジャロの雪が無かったら、その雪解け水を頼りに生きていた多くの動物たちは死んでいくに違いない。環境問題は後悔してからでは遅いのだ。だから予防原則(怪しいものは出さない)の立場で考えていかねばならない。

*温暖化を防ぐには二酸化炭素の排出量を減らすこと。

二酸化炭素の排出量を増やしているのは化石燃料だが、それらの鉱物資源は限りがある。特に石油は、政府のデータによるとあと四十年しか持たない。鉱物資源の奪い合いは戦争の原因にもなっている。戦争から遠ざかるにはエネルギーを自然エネルギーにシフトすることが一番の近

道。また、地球の百年後を考えたならばそれは「必然」である。

*温暖化や「ごみ問題」は、「みんなの心がけ」や「個人個人の家庭の努力」だけでは解決しない。

日本の二酸化炭素の排出は、たった一六六の事業所からの排出が半分を占めている。(家庭は多めにしても全体の二十パーセントに過ぎない。)その巨大排出源を減らさずして温暖化は解決しない。しかもそれは充分可能である。アメリカ、カナダ、アイスランド、ドイツ、北欧、イギリス、フランスなどでは成功している。

*「ライフスタイル」の問題ではなく「しくみ」が問題だ。

現在家庭の電気料金は、使えば使うほど「高く」なる。ところが事業所は使えば使うほど「安く」なるという「しくみ」になっている。だから事業所はたくさん使うのだ。それを使えば使うほど「高くなる」「しくみ」料設定に変わればよい。

(東京都が事業系のごみを有料化したら減ってきた。)
(ドイツは炭素税を掛けて二酸化炭素の排出量を減らし、それで得た税収を社会保障費に充てている。)

二、お金の使い方 を考える視点

*私たちは自分のお金の主人公になっているだろうか?

私たちが将来のために銀行や郵便局、農協に預けているお金が何に使われているか知っているだろうか? 郵便貯金や銀行の預金は過去に日本やアメリカの戦争のための資金として使われていたし、現在もそのしくみは変わっていない。アメリカのイラク戦争を支えたのは、日本が保有しているアメリカ国債だ。その国債の元手として私たちの貯金が使われている。

*地域の人のお金は地域で使おう。

その目的のために田中氏



は、16年前に市民が市民に融資するバンク、「未来バンク」の活動を始めた。今では組合員数約四四〇名、二億円の出資金で九億円を融資している。(ミスター・チルドレンの櫻井和寿氏、小林武史氏、坂本龍一氏が始めた a p bank も同様の活動。)

また、地域が衰退していく現実を変えるために、地域のお金を地域に残す方法を考えた。

★東京都足立区の例

学校給食の食材を地元の商店街から買うことにした。またお年寄りへの敬老祝い金を地元商店街の商品券(地域通貨)にした。地域通貨は一般通貨に比べ不安定なのでみんなが早く使おうと手放す。そのメリットで商店街が潤う。

★埼玉県小川町の例

住民から集めた生ごみを発酵させ液肥とメタンガスを作るバイオガス施設。建設に足りない資金は a p bank が融資した。(飯能消団連は昨年一月この施設を見学した。会報25号に報告。)

★福岡県大木町の例

小川町の施設を参考にし、それまでは海洋投棄していたし尿、浄化槽汚泥、生ごみを発酵処理し肥料を作るプラントを建設。住民から喜ばれている。

***家庭ですぐにできること**
日本の省エネ製品は非常にすぐれている。買い換えるなら省エネ商品にするとよい。その際は市民バンクから融資を受けるとよい。(電球、車、家など)

***家を建てるなら
三百年持つ家を
建てよう。**



国産・天然の資源で家を建てれば、環境や他国への負荷も小さく、地域の経済にも貢献でき、ひいては社会全体が健康になる。その目的で田中氏は最近、非営利の住宅供給団体を作った。

家を長持ちさせる国産の木を使って森を復活させよう。病気をしなくなるような素材を使って健康的に暮らそう。木材を適正価格で買って、生産者の収入を増やし地方を活性化させていこう。人生最大の買い物だからこそ納得できるまで考えよう。という主旨。さらにその住宅は購入時にその家が中古になったら販売する契約をすれば、購入金額からその分を差し引くので経済的というしくみにした。

なお、田中氏が紹介してくれた「皮むき間伐」の方法は、森林再生の問題に直面してい

る飯能市でも採用できたら、と思える内容だった。

三、未来を 変える視点

***しくみを変えれば未来が変わる。**

【NHKのビデオ「かしこい送電網」を観て】

このビデオの内容はアメリカのコロラド州ボルダーの実験を記録したものである。

全ての家庭がソーラーパネルで発電できるようにし、町全体に電力の需給バランスをコンピュータ制御する送電網が敷かれた。生活に必要なエネルギーは全て風力、太陽光発電でまかなうことが出来るという。すでにエネルギーを石油に頼らず、自然エネルギーにシフトすることに成功している。

世界ではもうこんなに進んでいる。アメリカやイスラエルに技術を提供しているのは日本の技術者たちだ。日本でもしくみを変えることで未来を変えることができるのだ。(の)

(参考図書)
「戦争って、環境問題と関係ないと思ってた」
岩波ブックレット
「天然住宅から社会を考える30の方法」合同出版

参加した 皆さんの 感想



●すぐ分かりやすいお話でした。原市場でも朝市を開いているので大切にしたいです。社会のしくみをなんとか変えて持続可能な社会にすべき、日本こそその技術を生かして、できるに!!

●戦争に反対する意志はあるものの、貯金していることがその(戦争の)一端となっている現状を知ると、もう少し考えを変えないといけないと思えました。

●事実をどんどん明かしていった痛快感を感じた。子ども世代の参加が少なかったのが、ちょっともったいないような気がした。環境問題に対する考え方が少し変わった。

●田中さんの講演を聞いたのは2度目で、いつもマジックのように思えます。つまりこれだけ明確なものがあるのに、世の中で実現する兆しや議論すらないのはなぜだろう?と思う今日この頃です。

●自分がどのように暮らしていくべきか、具体的にイメージができたように思います。でも、社会にはびこる恐竜はどうしたら倒せるのか、ジレンマも持ちました。

●ソーラー発電は進んでいるということも再認識しました。自然エネルギーについても再度考えなおしました。

●テレビなどで「ライフスタイルを変えよう」と宣伝されていますが、田中さんから「電気料金システムの問題」とのお話を聞き驚きました。企業が省エネに努力しないのは(現在のシステムでは)もっともな話ですね。個人に二酸化炭素排出の責任があるかのようなCMを流し、製品を購入してもらい、景気浮上に結びつける、という筋書きではないか。百年後の未来を見据えた政策を進めてもらいたいと思えました。

●ガソリン高いですね。田中さんの言われたピークオイルの現実が迫ってきているなあと感じる昨今です。地球温暖化をくい止め石油の消費を抑え、原発に頼らない、自然エネルギーにシフトしなければね。

●お金を地域内で回し、水・エネルギー・食料の自給率を高めるために「飯能では何が出来るか」ということでしょうか。エコツアー・朝市、そして森林保全・発電・生ゴミ堆肥化。結構あるじゃん。やるべきやないでしょうか。

